

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	873600472		
法人名	社会福祉法人 東湖園		
事業所名	高齢者グループホーム百歳万歳		
所在地	銚田市安房1665-2 (電話) 0291-33-3837		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月8日	評価確定日	平成20年9月26日

## 【情報提供票より】 (平成20年3月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	和30,000	洋35,000	その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,200	円	

### (4) 利用者の概要 (平成20年5月8日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4			
要介護5	要支援2				
年齢	平均 87.5 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	銚田病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの敷地内に法人の運営する特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・在宅介護支援センターがあり、日常的な交流はもとより研修や緊急時等においても支援体制を構築し、家族が安心して利用者を預けられるシステムになっている。  
ホームの玄関やテラスには数多くの鉢植を置き、クラブ活動や自家栽培などを通じて四季の変化や五感を刺激する支援づくりを積極的に行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>昨年より、特別養護老人ホームの栄養士にカロリー計算を依頼し、給食日誌をつけるなど利用者の栄養管理をしている。 内服薬は必ず水か白湯で服用するように改善している。 新しい契約書には相談窓口を記載し、新たに意見箱もホーム内に設置している。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>管理者は評価の意義と目的を理解し、全職員の意見を参考に自己評価を作成している。 外部評価の結果をミーティングで全職員に報告し、具体的な改善策の検討を行うとともに、ケアの改善に取り組んでいる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>家族・地域住民・行政などの委員による運営推進会議を開催し、サービスの質の向上に努めているが、2ヶ月に1度の定期的な開催には至っていないので、定期的かつ継続的な開催が望まれる。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>毎月ホームの日常生活を掲載した「百歳万歳だより」を作成し、行事予定や利用者の暮らしぶりを伝えるとともに、職員の異動等も報告している。 利用者の状況の変化に応じ、随時家族等に電話で連絡し説明・報告するとともに、苦情・要望等を聴取し不安を抱かないように配慮している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、地域での清掃行事などに積極的に参加するとともに、中学生・大学生の職場実習体験の場としてホームを開放したり、特別養護老人ホームと合同で主催する納涼祭に地域の人々を招待するなど、交流に努めている。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいを大切にしながら、利用者が自分の家と同じような生活ができるよう、利用者本位の生活支援を行うことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務室に掲示することはもとより、ケアカンファレンスや会議など折に触れ、理念の意義を確認するとともに、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域での清掃行事などに積極的に参加するとともに、中学生・大学生の職場実習体験の場としてホームを開放したり、特別養護老人ホームと合同で主催する納涼祭に地域の人々を招待するなど、交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義と目的を理解し、全職員の意見を参考に自己評価を作成している。 外部評価の結果をミーティングで全職員に報告し、具体的な改善策の検討を行うとともに、ケアの改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期的な運営推進会議は行われていない。	○	2ヶ月に1度、定期的かつ継続的な運営推進会議を開催し、サービスの質の向上に取り組んで行くことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新時や事務手続き代行時など折に触れ、市の担当者と意見交換を行ったり、いろいろな相談にのってもらっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームの日常生活を掲載した「ホームたより」を作成し、行事予定や利用者の暮らしぶりを伝えるとともに、職員の異動等も報告している。 また、利用者の状況の変化に応じ、随時電話にて連絡を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱の設置はもとより、苦情受付簿を作成して利用者や家族のなにげない意見も記録し、苦情対策委員会で報告・検討するとともにケアの改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	東湖会グループ内での異動はあるが、法人全体で納涼会や運動会、避難訓練等の行事を数多く開催しており、馴染みの関係づくりに配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス向上委員会を設置し、職員の研修計画を作成している。 研修受講者は報告書を作成し、全体会議等で報告を行い、職員のスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、運営者は地域の同業者と交流を図っているが、職員間の交流はない。	○	管理者は他のホームの見学会や相互研修会を企画し、事業者同士が協働してサービスの質の向上に努める取り組みを期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に必ずホームを見学してもらい、一緒に食事を摂るなど場の雰囲気を感じてもらい、十分な話し合いのもと納得したうえで利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は野菜作りや清掃などの場面に応じ、利用者から数多くの人生の知恵を教えてもらっている。 ホーム内放送など利用者の得意分野で力を発揮してもらおうとともに、職員と利用者の関係が崩れないよう場面づくりや声かけの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の行動や表情などから、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、半年に1度はケアチェックを行い、それをもとに定期的に利用者のメンタリングを行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、利用者がその人らしく暮らせるよう利用者や家族の要望をもとに、職員の意見を参考にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者やその家族の要望をきちんと把握したうえで利用者一人ひとりのアセスメントを行い、介護計画を作成している。 モニタリングを活用し定期的な見直しはもとより、状況の変化に応じ柔軟に対応や見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護の利用・通院介助・介護更新手続き代行・家族の宿泊支援など、要望に応じ柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年2回の健康診断の実施と利用者の健康状態に応じ、24時間対応可能な協力医療機関を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの指針は作成しているが、チームとして共用の認識を持つまでには至らず、家族の要望に対応していない。	○	重度化や終末期のあり方について、チームで十分な話し合いの場を設け、共有の認識をもつとともに、重度化に伴う意志確認書の作成などの取り組みを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を第一に考え、ホームだよりの顔写真や個人名の記載に関してもきちんと同意を得てから掲載している。 利用者の個人情報に関する書類は事務室に保管し、情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や、その日その時の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は会話を楽しみながら、職員も利用者の中に入ってサポートし、一緒に食事を摂っている。 食事の準備や下膳などは職員が全て行っている。	○	利用者の力量に応じ、下膳や配膳だけでも楽しめるような支援づくりを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった入浴支援をしている。 また、菖蒲湯などを行い季節感や五感を刺激し、入浴を楽しめる工夫もしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内放送や野菜作り、洗たく物たたみなど利用者一人ひとりにあった役割や活力を引き出す場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1度のクラブ活動や月に1度の行事活動時は必ず外出をしている。 また、利用者の希望に応じ柔軟に買い物や散歩等の支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかける弊害を理解し、日中は施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、定期的に避難訓練を実施しているが、地域の人々と協働で避難訓練を実施する体制までには至っていない。	○	地域の自治会や運営推進会議などにおいて、地域密着型サービスの意義を理解してもらい、協力体制の構築を期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの栄養士にカロリー計算をしてもらい、利用者一人ひとりの食事量や栄養バランスを把握しており、食事や水分の摂取状況も毎日チェックし記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテラスに季節感のある数多くの草花と廊下に椅子を置き、一人で安らげる居場所づくりをするなど、利用者同士の関係に配慮した空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して暮らせるよう、居室に家具やテレビ、電気ストーブなどが持ち込まれている。 壁には家族の写真や手作りの表装を飾り、利用者が居心地良く過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。